

新規事業評価調書

【道路事業】

一般国道312号 下宮拡幅

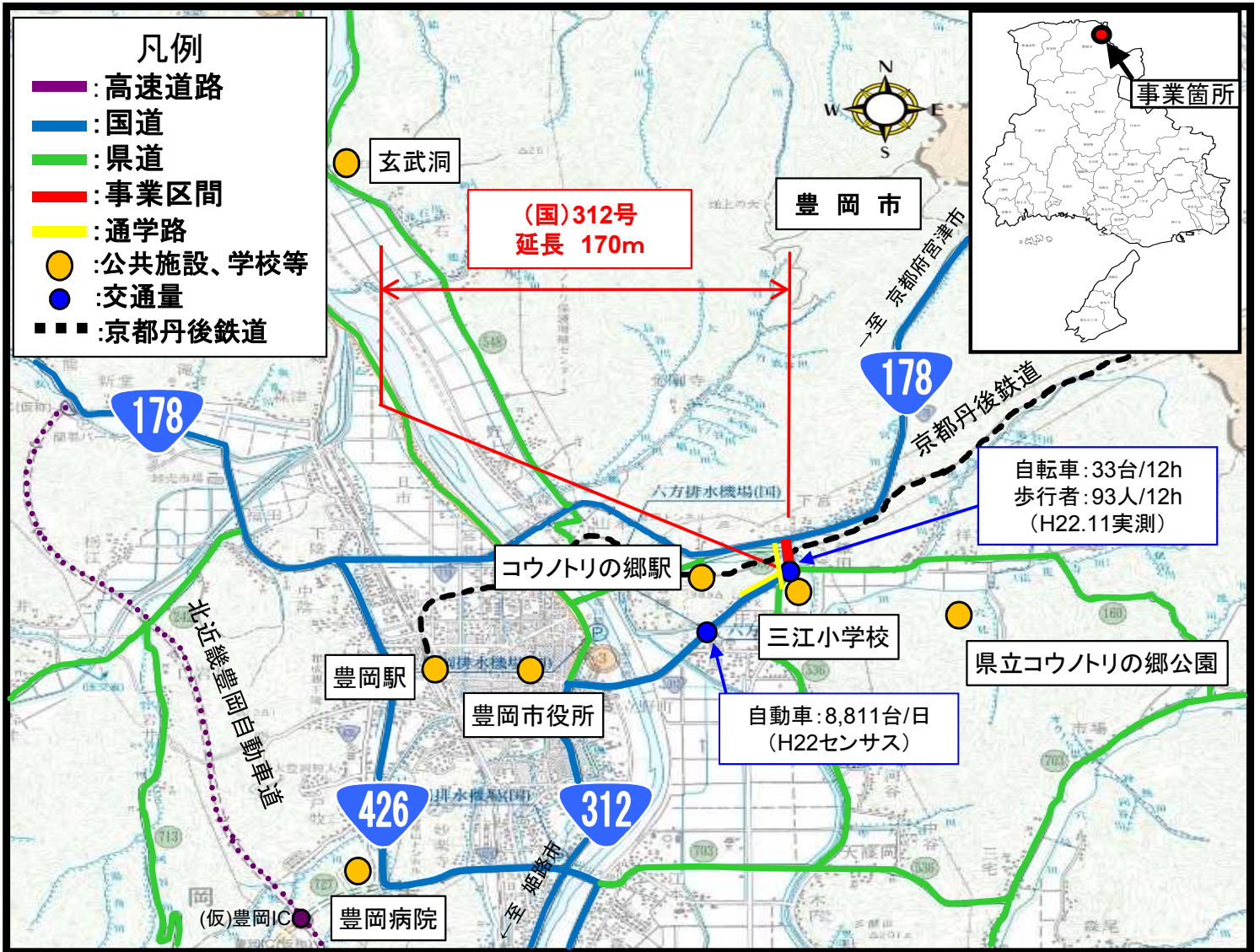
県土整備部

土木局 道路街路課

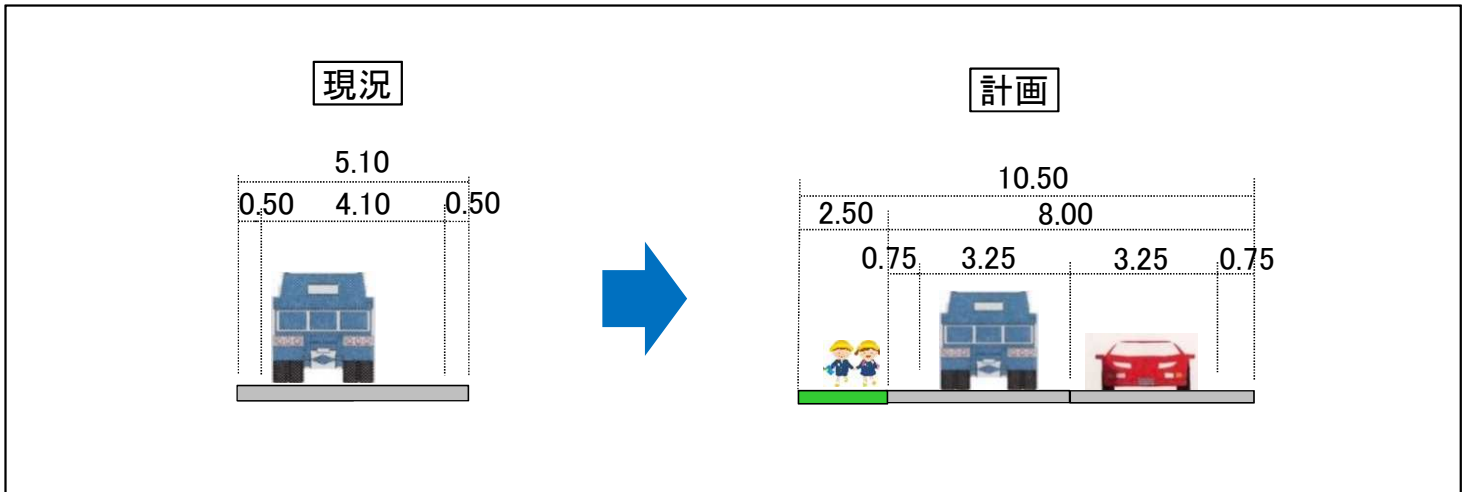
投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 嶋田 博文 (国道・橋梁班長 江指 真祐)	内線	4362 (4378)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
道路事業	道路改築事業 国道312号 〔下宮拡幅〕	豊岡市 ^{しものみや} 下宮	4.0億円	0.6億円	平成29年度	平成32年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は、京都府宮津市を起点とし、豊岡市を経て姫路市に至る幹線道路であり、沿線地域の生活・産業・観光を支えるとともに、大規模災害時には救命救急活動や緊急物資の輸送など緊急輸送道路の役割を持つ重要な路線である。</p> <p>○円滑な交通の確保 京都丹後鉄道鎌田橋りょう交差部において、幅員が狭小な現道を2車線に拡幅することにより、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>○安全な歩行者通行の確保 歩道の整備により、通学児童等の安全な通行を確保する。</p> <p>○緊急輸送道路の強化 大規模地震などの広域災害時に、防災拠点や公立豊岡病院（三次救急医療機関）などの災害拠点病院を結ぶ緊急輸送道路の強化を図る。</p>			<p>【延長】170m</p> <p>【構造規格】第3種第2級</p> <p>【計画幅員】2車線 片側歩道2.5m 車道6.5m（全幅10.5m）</p> <p>【計画交通量】10,100台/日（H42予測）</p> <p>【現況交通量】</p> <p>自動車：8,811台/日（H22センサス） 自転車：33台/12h（H22実測） 歩行者：93人/12h（H22実測）</p> <p>【負担割合】</p> <p>国：55% 県：45%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 京都丹後鉄道鎌田橋りょうと交差する区間は、当該路線では県内唯一の幅員狭小区間（最小車道幅員5.10m 1車線）である。通行車両の離合が困難な状況であることから、過去5箇年（H23～H27）の間に6件（車両6件）の交通事故が発生している。また、本区間周辺には、県立コウノトリの郷公園や玄武洞など、主要観光施設が位置しており、自動車交通のアクセス性を向上させる必要がある。これらのことから、現道を拡幅することにより、幅員狭小部を解消し、円滑な交通を確保する。</p> <p>② 現道は、三江^{みえ}小学校の通学路（通学児童約30人）になっているが、路肩が狭く危険である。このため、歩道を整備し、歩行者の安全な通行を確保する。</p> <p>③ 地域の防災道路強靱化プランの「緊急輸送道路の残る未改良区間10km」に該当する本区間を2車線化することで、災害に強い道路ネットワークを構築する。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>① 費用便益比B/C=8.0</p> <p>② 2車線改良により、移動時間の短縮、歩行者の安全確保及び交通事故の減少が図られる。</p> <p>③ 豊岡市及び地元自治会より、現道の拡幅について要望書が提出されるとともに、本事業に対する北近畿タンゴ鉄道(株)の理解も得られており、事業執行環境が整っている。</p>					
(3) 環境適合性	① 歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。					
(4) 優先性	① 地域の防災道路強靱化プランに位置づけられており、災害に強い強靱な県土づくりを進める上でも早期整備が必要である。					

位置図



横断図



交通の円滑化と安全性の向上

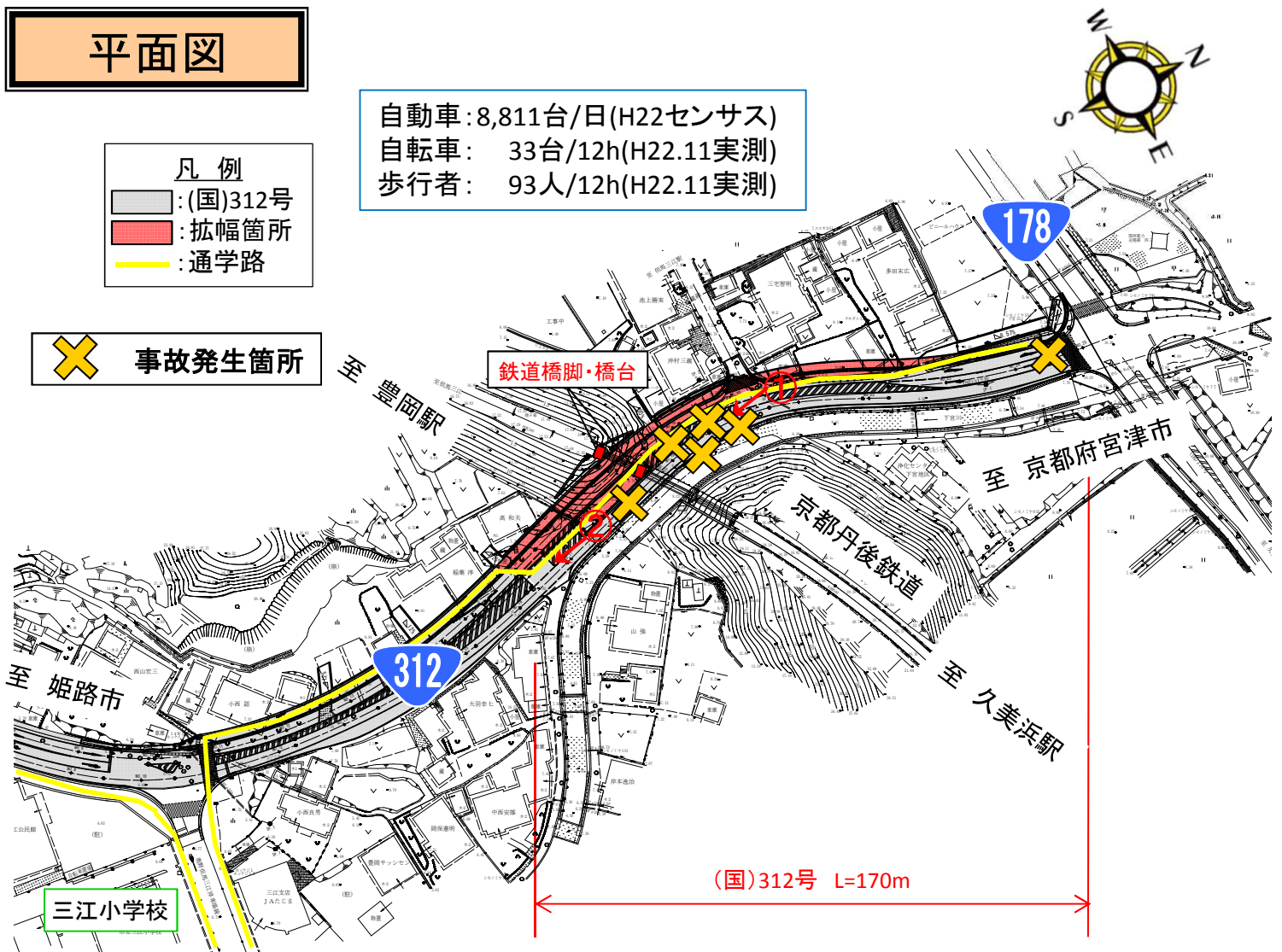
- ・幅員狭小(最小車道幅員5.1m)のため、自動車同士の離合が困難
- ・路肩が狭く、通勤・通学の歩行者等が危険
- ・現道区間におけるH23～H27の事故件数は6件(車両事故6件)

平面図

- 凡例
- :(国)312号
 - :拡幅箇所
 - :通学路

✕ 事故発生箇所

自動車: 8,811台/日(H22センサス)
 自転車: 33台/12h(H22.11実測)
 歩行者: 93人/12h(H22.11実測)

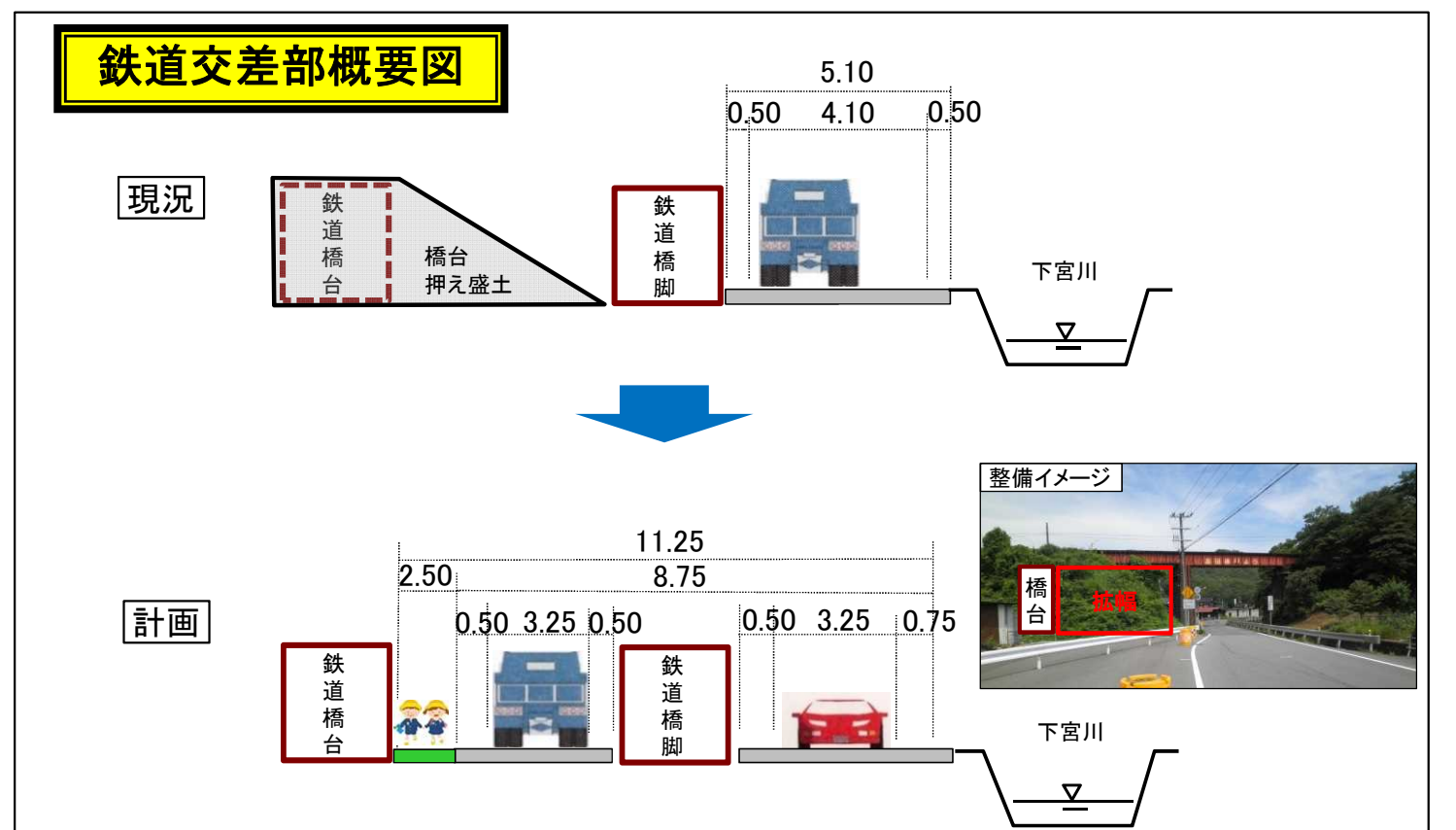
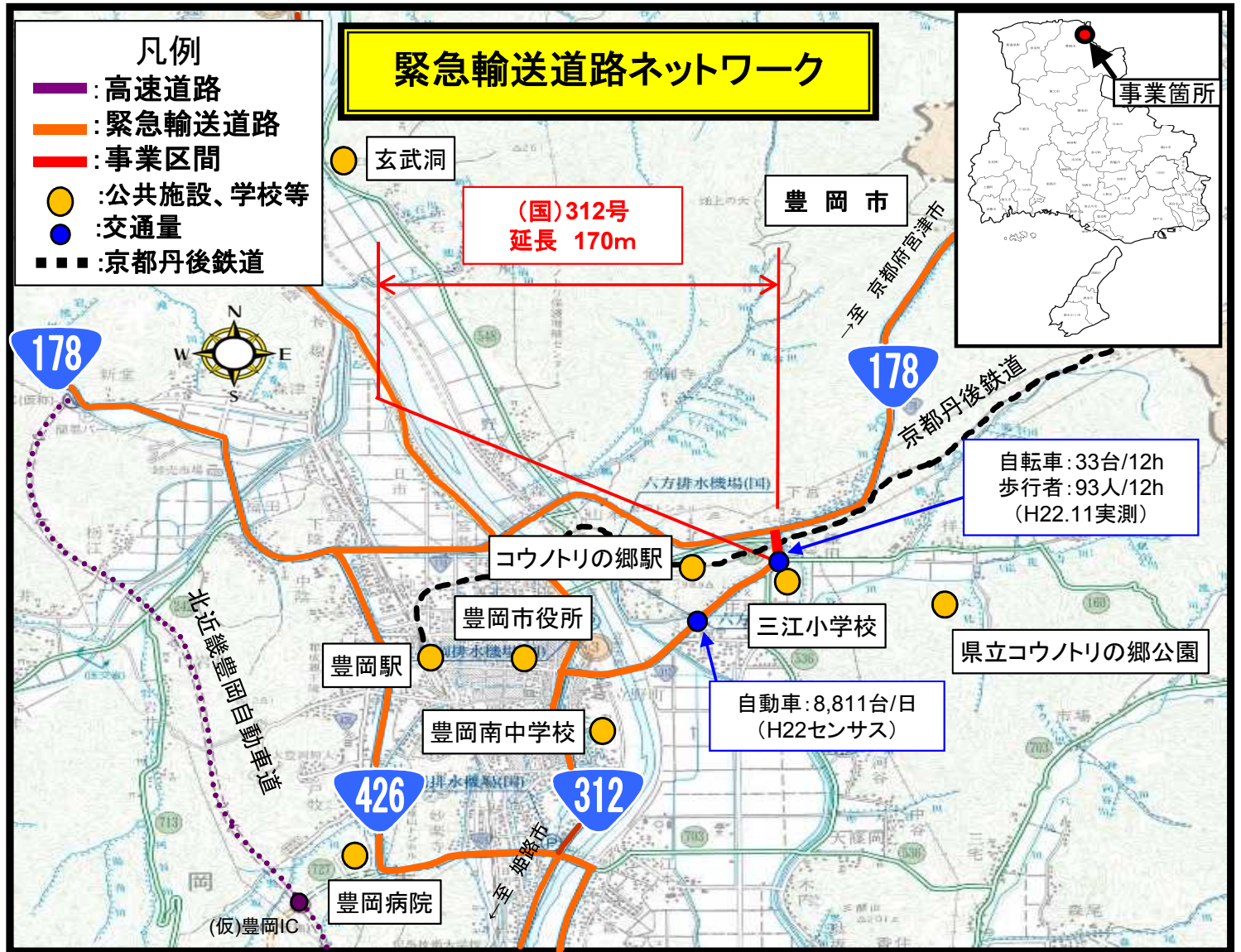


幅員が狭く離合が困難なため
手前で待機する車両

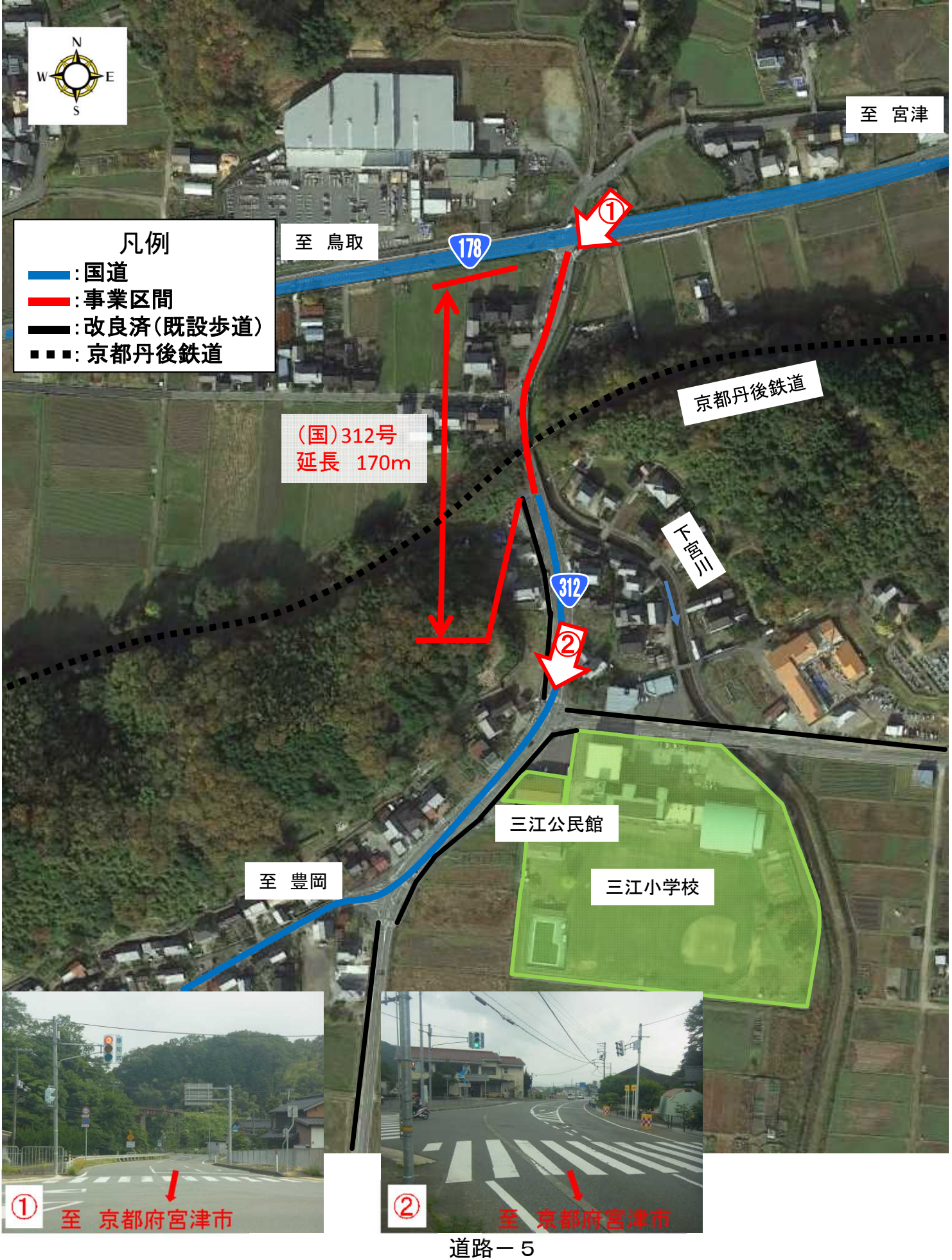
路肩が狭く、通学児童が危険

現道における事故発生件数	
年	事故発生件数
平成23年	3
平成24年	1
平成25年	0
平成26年	0
平成27年	2
合計	6





周辺状況図



1. スケジュール

当初計画

工種	年 度			
	H29	H30	H31	H32
調査 設計				
用地 補償				
工事				

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B / C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
道路	道路改築事業	① 走行時間短縮便益	2403	計画交通： 10,100台/日(H42)	330	321	9	8.0
	国道312号	② 走行経費減少便益	205					
	下宮拡幅	③ 交通事故減少便益	29					
	計	2637						

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 三江小学校などの通学者の安全性の向上
- ② 「県立コウノトリの郷公園」へのアクセス道路整備（大型観光バス等）
- ③ 基幹病院へのアクセス性向上による救急医療体制の向上

道路・街路事業の効果

対象事業：道路事業（国）312号 下宮拡幅

（１）費用対効果

費用対効果	
走行時間の短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

（２）費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路)	○ ・災害拠点病院（公立豊岡病院）へのアクセス道路の整備 ・緊急輸送道路の整備
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○ ・円山川増水時のリダンダンシーを確保
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○ ・下宮集落から地域の避難所（三江小学校、三江公民館）へのアクセス性が向上
	平時	救急医療体制の支援	○ ・豊岡市東部・京丹後地域から公立豊岡病院（3次救急医療）へのアクセス性が向上
		交通安全対策	○ ・三江小学校など地元児童・生徒の安全性が向上
②地域の活性化		地域間交流の促進	○ ・豊岡市中心部から周辺都市へのアクセス性が向上
		中心市街地の活性化	— —
		地域産業の活性化	○ ・豊岡市中心部から周辺都市へのアクセス性が向上
		観光支援	○ ・県立コウノトリの郷公園、玄武洞などへのアクセス性が向上
		地域プロジェクト等支援	— —
③円滑な交通体系の確保		公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○ ・豊岡駅、コウノトリの郷駅へのアクセス性が向上（バス路線）
④地域の環境改善		沿道環境の改善 景観形成	○ ・歩道部を透水性舗装とし雨水を地下に還元